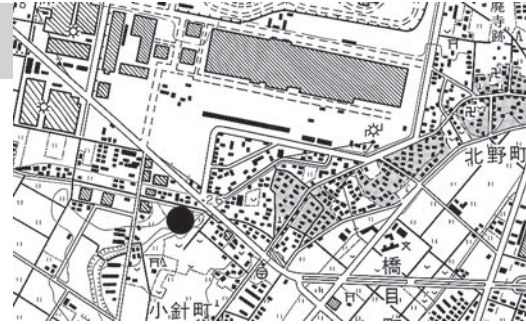


こぼり
小針遺跡

所在地 岡崎市小針町地内
 調査理由 県道名古屋岡崎線
 調査期間 平成15年7月～12月
 調査面積 2,100㎡
 担当者 小嶋廣也・松田 訓



調査地点 (1/2.5万「岡崎」)

調査の経過 調査は県道名古屋岡崎線建設工事に伴う事前調査として、愛知県建設部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成15年7月から12月にかけて実施した。調査面積は2,100㎡である。

立地と環境 小針遺跡は、矢作川中流部に市域を広げる岡崎市の中で、右岸に広がる沖積平野と、この西側に広がる碧海台地との段丘崖台地側に立地する。調査地点の旧態は畑地で、周辺は住宅地が広がる。

調査の概要 調査は、道路建設予定地に合わせ、東西方向に展開して設定された。この調査区を、周辺民家への侵入路確保のため西側半分を南北 (A・B区) に分け、東側半分 (C区) とあわせて三分割し、順次作業を進めた。調査地点の基本層序は、旧耕作土、客土の下に灰褐色シルトが入り、その直下に遺物包含層である暗褐色シルトが堆積し、基盤と思われる更新統の赤土がみられた。調査区東端では、河川の影響による粗粒砂層が認められた。

今回の調査で確認された遺構は、遺物の伴うものが少なかった。確認できたものに限れば、戦国時代以降のものと思われる溝を除いて、土坑、小穴、竪穴住居などは、7世紀前半を主体とするようである。竪穴住居跡は、調査地点内において約20を数えたが、多くのものは床面の北側中央部で、カマド跡と思われる焼土が認められた。多量に検出された小穴は、遺構間の相対関係を検討中である。これらの遺構は、出土遺物が少ないものの当該期の集落跡を物語っており、自然科学的分析も含めて現在整理中である。

(松田 訓)



A区南西から



B区南東から



小針遺跡遺構位置図 (1:500)